



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3616 号 2017.4.24 発行

【女の視線】障害児施設が母親雇用 孤独な子育てに広がる支援の取り組み 子供の近くで働く安心感 産経新聞 2017年4月24日



スタッフとして働くカフェで長女と話す島田希さん（右）＝札幌市

医療的ケアが必要な子供や重度の障害児が日中を過ごす施設で、母親を雇用する取り組みが広がってきている。保育園など子供を長時間預けられる場所は少なく、仕事を辞めて孤独な子育てをしている母親も多い。職場を提供し、精神的、経済的に支える狙いだ。子供のそばで働ける安心感もあり、仕事との両立支援策として期待が高い。

◆外の世界に再び
千葉県松戸市で医療的ケアが必要な子供を預かる「サポテ



ンKIDS」。運営会社のアースは昨年10月から、母親の採用を始めた。パートの看護師、雅代さん（44）＝仮名＝は難病の長男（5）を預け、働いている。

長男はヌーナン症候群という難病で、1日に何度もたんの吸引が必要だ。出産までは助産師として働いていたが、子供を預ける先がなく、仕事の継続を断念。家族はいるが、これまでほとんど1人で介護や食事の介助をしてきた。「子供と家族だけの生活が、外の世界に触れられるように変わってうれしい」。施設では自分の子供の世話はしないが、「何かあってもすぐにのぞけるので安心」と笑顔を見せる。

名古屋市でも、社会福祉法人「むそう」（愛知県半田市）が5月、母親が働く選択肢を増やすため、医療的ケアが必要な子供を預かる施設の1階にチョコレートショップを開設。スタッフの青谷彩さん（35）は「社会に出て人と関わりたいし経済的にも助かる」。別の母親（32）も「仕事は諦めていたが希望が湧いた」と話す。

◆職種は幅広く

医療的ケアが必要な子供を受け入れる保育園は少なく、こうした子供を対象にした児童発達支援センターなどで過ごせる時間も限られている。付き添いを求められることもあるため、フルタイムで働くのは難しく、両立支援は著しく遅れている。

障害児保育園ヘレン荻窪（東京都）の遠藤愛園長は「職場復帰の道が閉ざされたショックは大きい」と支援の必要性を強調する。

こうした中、札幌市の社会福祉法人「麦の子会」は、15年ほど前から障害児施設などで母親の雇用を積極的に進めてきた。約400人の職員のうち、障害児の母親はパートも含め193人。看護師やヘルパーのほか、送迎、喫茶担当など職種は幅広い。預かり時間も夕方まで延ばした。「障害児が生まれたことで離婚する人も多い。仕事もなく、生活に困る母親を助けたい」（古家好恵理事）と取り組む。

障害がある2人の娘を育てながら喫茶部門で働くシングルマザーの島田希さん（43）

は「母親同士悩みを相談しやすい。支えてもらったお返しをしたい」と語る。

障害児の子育てに詳しい柏女霊峰（かしわめ・れいほう）淑徳大教授は「重い障害のある子供の母親は育児に専念すべきだという圧力は強く、母親もそう思い込んできた」と指摘。「障害児を預かる保育園を増やし、施設の預かり時間を長くすることで仕事との両立は可能になる。施設が母親を雇うことも一つの方法」と話した。



を学ぶのでしょうか。（ネット報道部 後藤岳彦記者）



店、アサツー ディ・ケイなどが協力して始めたプロジェクトが「はだかの学校」です。地域に根付いた銭湯を新たな学びの場として捉え、お風呂の中で授業を行います。まさに裸のつきあいを重視しています。

プロジェクトの中心は、日の出湯のオーナー、田村祐一さん、36歳。「はだかの学校」の校長を務めます。田村さんは、東京・蒲田にある老舗銭湯の跡取りとして生まれ育ちました。大学を卒業後、有限会社「日の出湯」に就職。26歳で取締役就任し、SNSでの情報発信を打ち出して銭湯の経営改革に力を注ぎました。

田村さんが「はだかの学校」を始めたきっかけは、数年前、銭湯に通う94歳の常連客と話したことです。日の出湯がある上野の街の昔の姿や戦時中の話など、今ではなかなか



銭湯を学びの場に はだかの学校

NHK ニュース 2017年4月24日

講師も生徒も裸になる新たな学びの場が東京にできました。会場は銭湯、月に1度だけ授業が開かれます。入学（入浴）試験はなく、授業料は460円、つまり入浴料のみ。地域に根付いた銭湯を学びの場にしようと、お風呂の中で授業を行う、その名も「はだかの学校」です。裸のつきあいから、何

銭湯を人が集まる場所に

田村祐一さん

東京都台東区、上野駅から徒歩10分ほどのところにある銭湯「日の出湯」に開校したのが「はだかの学校」です。

銭湯は、昭和40年代には東京都内だけで2600軒余りありましたが、今は600軒余りに減っています。姿を消しつつある銭湯という施設を再び多くの人が集まる場所にしようと、俳優の伊勢谷友介さんや、大手広告代理

聞くことのできない「ナマの話」が、田村さんの耳に新鮮に響きました。地域ならではの話が聞けて、コミュニティーが生まれる。銭湯のそんな魅力を大切にすれば、全国の銭湯が盛り上がっていくかもしれないと考えました。

本当に裸です（男湯のみ）

「はだかの学校」が開校したのはことし3月です。4月22日には2回目の「授業」が開かれました。評判を聞

きつけた私も、早速「聴講」に行ってみました。

集まってきた生徒は、20代から70代までの男性11人、女性9人の合わせて20人。授業は男湯と女湯の2部制で行われます。のぼせてしまわないよう、授業時間は15分程度で、授業の開始前には、気分が悪くなる前に湯船から出てくださいとスタッフが呼びかけていました。

この日の講師は、落語家の立川かしめさん。授業のテーマは、落語です。立川さんは江戸時代の庶民の暮らしから、銭湯との関係性をひもとき、当時の生活ぶりなどをおもしろおかしく話しました。男性は湯船につかりながら、女性は足湯で、授業に聞き入ります。

授業の風景はSNSでも発信されるので、生徒は原則、タオルを巻きますが、男湯は裸。講師の立川さんも、男湯ではタオル1枚の姿で、裸のつきあいです。浴場に立川さんの朗々とした声が響き渡ると、参加した人たちからは、汗とともに、自然と笑顔が生まれていきました。

生徒の顔ぶれはさまざまです。毎日のように銭湯に通う「常連さん」のほか、銭湯にあまり行くことがないものの落語を聞きたいと参加した女性も。「いつもの銭湯がふだんとは違う雰囲気です、とても楽しかったです」「落語を聞くのは初めてでしたが、銭湯と落語の関わりなど、知らないことを知ることができて、とても楽しかったです。また出席したい」などの声が聞かれました。

ドイツから日本に旅行中で、銭湯で落語を聞けることをフェイスブックで知り、息子と2人で参加した人もいました。「日本に留学していたときは毎日、京都の銭湯に通っていました。銭湯で日本の落語が聞けて、とてもよかった」と満足そうでした。



ドイツから旅行中の親子

3月に開かれた1回目の授業では、料理道具の間屋街として知られる浅草・かっぱ橋道具街の老舗の料理道具屋の6代目で、テレビなどでも活躍している飯田結太さんが講師に。大正時代から続く店の歴史や、日本ならではの古道具を披露し、会場を沸かせました。

校歌や校則もあります

そんな「はだかの学校」には校歌や校則もあります。

一つ、心も体もはだかになって、授業を聞くこと。

一つ、年齢も肩書きも、校内では忘れること。

一つ、学校では知らない人と積極的に話すこと。

一つ、ご近所じゃない人とこそ、仲良くすること。

一つ、授業が面白くても、10分に

一度は必ず湯船から上ること。

一つ、人に教わりたいたことがあれば、学校に申し出ること。

一つ、人に伝えたいことがあれば、先生になること。

銭湯ならではのユニークな校則が並んでいます。校長の田村さんは、講師も生徒も裸になって湯船につかりながら学ぶことで、個人の立場や肩書に関係なく、一緒に学び、話をできる場が生まれると考えています。

人と人をつなぐ場 銭湯

私自身も、休日や仕事が早く終わった日の夜には自宅近くの銭湯に足を運びます。年配の人から同世代の人、幼い子どもを持つ親まで、ふだんなかなか顔を合わせる事のない人との会話も、銭湯でなら、なぜか弾みます。そんな銭湯の魅力が失われないでほしいと



強く思います。

「はだかの学校」の次回の授業のテーマは「囲碁」。囲碁の魅力を伝える活動に取り組んでいる若き起業家が講演します。毎回、さまざまなテーマで授業が行われる「はだかの学校」。銭湯が地域を元気にする場にしたいという主催者たちの思いが共感を呼んで、日の出湯の取り組みが全国各地の銭湯に広がり、かつての活気ある銭湯の姿を取り戻して欲しいと

感じました。

「はだかの学校」は、日の出湯で直接申し込みをするか、フェイスブックから申し込みば誰でも参加できます。

【野村卓也 うめきた to the world】人工無脳ロボットや最新映像技術…交産経新聞 2017年4月23日



「雪丸ロボット」の次の展開について話し合う北浦武士社長(右)と保田充彦社長

聖徳太子ゆかりの奈良県王寺町にある達磨寺(だるまじ)には、太子の愛犬「雪丸」の像が安置されている。同寺のホームページによると、雪丸は「人の言葉を理解でき、お経を読むことができた」とされる」とか。現在はゆるキャラとなって同町の公式マスコットキャラクターを務めているほか、簡単な会話をする人工無脳ロボット(チャットボット)として小学校の図書館

の受付でも活躍している。

「たくさん借りてくれてありがとう!」「まだ返してない本があるよ」。雪丸ロボットが子供たちに呼びかける。本の貸し出し、返却などが児童だけでできるようになり、貸し出し数も増えたそうだ。京都聖母学院小学校のほか、今春から奈良県内の3つの小学校と公立図書館でも導入が始まるなど、各地から引き合いがあるという。

開発したのは、ミッドウェソフトウェアデザインズ(大阪市北区)の北浦武士社長。このシステムにより、大阪・キタの知的創造・交流の場「ナレッジキャピタル(KC)」が今年3月に開催した「ナレッジイノベーションアワード」で準グランプリに選ばれた。

一方、同アワードで近畿経済産業局長賞を受賞した「バーチャルドローン」は、ズームス(神戸市中央区)の保田充彦(やすだ・あつひこ)社長が開発した。現実空間に仮想の3次元物体を高精細に合成する最新映像技術、MR(複合現実)を利用。ゴーグル型のディスプレイをかけると、今いる空間の中で仮想の小型無人機ドローンが操縦できる。衝突や墜落の危険性がなく、初心者や子供にも操縦が可能。実際のドローン操縦の訓練やゲームへの応用も期待できる。

KCではさまざまな開発者らが出会い、コラボレーションやアドバイスを通じて精度を高め合っている。ビジネスモデルありき、利益優先ではなく、人間関係をつくり、信頼感の中で新しい技術やアイデアの価値を磨き、事業化を目指す。先の両社も「KCに参画して道が開けた。協力してさらに新しいことができないか」と模索し始めた。

4月末で開業4年を迎えるKCが掲げる「ナレッジイノベーション」のモデルから、成果が芽吹きつつある。さらにこのモデルを強化し、加速させたい。5周年となる来春、大きく開花する予感がある。

のむら・たくや 一般社団法人ナレッジキャピタル総合プロデューサー、株式会社スーパーステーション社長。大阪生まれ。広告代理店勤務の後、平成4年に同社を設立。創造産業振興のためのプロジェクトなどを数多く企画・プロデュースしてきた。ナレッジキャピタルでは開業前から知的エンターテインメント空間としてのコンセプトを立案し、施設の全体計画や運営手法などをトータルで手がけた。

脳卒中の原因となる脳動脈瘤、AIが「確率9割超」で発見

読売新聞 2017年4月24日

AIを使った脳動脈瘤の画像診断 ※画像はエルピクセル提供



東京大発のベンチャー企業「エルピクセル」(東京都)が、脳卒中の原因となる脳の血管のコブ(脳動脈瘤)を、磁気共鳴画像装置(MRI)などの画像から見つける人工知能(AI)を開発した。

先端技術の「ディープ・ラーニング(深層

学習)」で発見率を9割超に高めたという。

同社は年内にも、病気の診断に深層学習を活用した国内初の医療用ソフトとして国に申請し、事業化を目指す。

新開発の画像診断支援AIは、数秒間でコブの可能性が高い部分を判定し、コンピューター画面に赤く表示する。機械が自動的に画像などの特徴をつかむ深層学習の手法を応用し、放射線科専門医の診断の特徴を学ばせた。国内約10施設の医療機関の協力を得て試験運用し、発見精度は90%以上と実用レベルに達しているという。

日本脳ドック学会などによると、脳動脈瘤は30歳以上の3%強に見られ、年間約1万2000人が破裂による出血で死亡。後遺症が残る患者も多く、破裂の危険性が高くなる直径5~7ミリ以上のコブを脳ドックなどで見つけて治療する必要がある。

通常は、放射線科医がMRIなどの画像から、脳動脈瘤と血管表面にもとからある凹凸などと区別して診断する。だが、人手がかかり、診断件数には限界があった。

青木茂樹・日本医学放射線学会副理事長(順天堂大教授)の話「人手不足の現場の助けになる技術だ。ただ、医学的に問題とされない脳動脈瘤もある。最終的な診断は医師に委ねるべきだ」

【深層学習】 脳の神経回路をモデルにしたAI技術。画像や音声、文章の認識精度を飛躍的に向上させ、スマートフォンの音声検索や、車の自動運転、囲碁のAIなどに幅広く活用されている。

障害者が楽しむ 17チーム118人、練習の成果競い /大分

毎日新聞 2017年4月24日

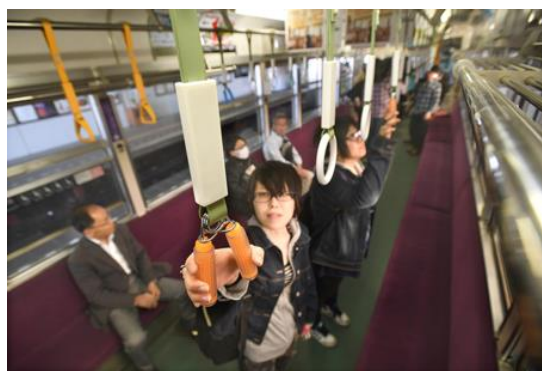
第15回あすぴあおおいた卓球バレー大会が23日、大分市の県身体障害者福祉センターであり、身体や知的、精神障害を持つ選手たちが、日ごろの練習の成果を競い合った。

障害者支援施設などからの17チーム計118人が参加。10～80代の選手らは、卓球台の上で木製ラケットを使い、ラリーを展開。鋭いスマッシュが決まると歓声が上がった。

つり革や椅子、車内で筋トレ 嵐電「健康電車」でGO! 京都新聞 2017年4月24日
電車の移動時間を使って筋力トレーニングを。京都市右京区などを走る京福電気鉄道（嵐電）が24日、車内に健康器具を取り付けた「健康電車」の運行を始めた。乗客が車内で腹筋や握力を鍛えられる。

右京区が推進する「健康長寿のまち」の企画として、区内の各種団体でつくるプロジェクトチームが、運行会社の京福電鉄の協力を得て初めて実施した。

1両編成で、座席の両端4カ所にクッション型の空気入りの椅子を設置した。電車の揺れに合わせてバランスを取る必要があり、腹筋を使うという。つり革10本の先には握力を鍛える3種類のハンドグリップを取り付けた。



つり革の先に取り付けたハンドグリップをつかみ、握力のトレーニングを体験する乗客（24日午前10時48分、京都市下京区・四条大宮駅）

午前10時50分すぎに第1便が四条大宮駅（下京区）を出発。友人と嵐山観光に訪れた三重県の会社員渡辺千咲翔（ちさか）さん（25）は「座るとおなかに力が入る。普段は筋トレをしないけど、移動中に体験できるのは面白い」と楽しんでた。

9月30日までほぼ連日運行する。嵐山線と北野線の運転日を分け、両線とも1時間に1本程度運行する予定。

重度障害の女性に性的暴行 バス運転手逮捕 日テレニュース 2017年4月24日

重度の障害がある女性に性的暴行したとして、69歳の男が逮捕された。

警視庁によると強姦の疑いで逮捕された特別支援学校のバス運転手、河東将浩容疑者は今年2月、都内のマンションで足に重度の障害がある40代の女性に性的暴行を加えた疑いが持たれている。

河東容疑者は以前、都内の福祉作業所で送迎バスの運転手をしていて女性と面識があり、調べに対し「性行為はしたが、性的暴行はしていない」と容疑を否認しているという。

偽肝炎薬が病院にも流通 和歌山市、患者には渡らず 共同通信 2017年4月24日

C型肝炎治療薬「ハーボニー」の偽造品15本が1月、東京都や奈良県で相次いで見つかった問題で、うち2本を和歌山市内の病院が無許可業者を通じて購入していたことが24日、厚生労働省などへの取材で分かった。偽造品が医療機関に渡ったことが明らかになるのは初めて。



厚労省などによると、大阪市内で介護サービス事業を展開する業者を通じ購入。2本とも正規品の外箱や添付文書（説明書）がない状態だった。

病院は偽造品問題を受けて返品しており、患者には処方されなかった。

C型肝炎治療薬「ハーボニー」の偽造品（左3種）と正規品

遺伝子ってなあに？ 易しく解説



河北新報 2017年4月24日
イラストを多用した「親子であそぼ！！ 遺伝子るんるん学び帳」

遺伝情報を活用した次世代医療研究に取り組む東北大東北メディカル・メガバンク機構（仙台市青葉区）は、遺伝教育用の冊子「親子であそぼ！！ 遺伝子るんるん学び帳」を作製し、学校や家庭向けに配布している。

冊子は20ページで「生き物と遺伝子の数」「DNA」など4種類のワークシートと解説で構成。2枚の絵から異なる箇所を見つけたり、シール貼りをしたり、5歳ぐらいから取り組める

よう工夫した。

解説は平易な表現やイラストを多用し、細胞核と染色体、DNAの仕組みなどを親が子どもに読み聞かせできるようにした。遊びながら専門用語が学べるカードも付けた。

企画・編集した小林朋子助教（小児遺伝学）は「遺伝子は人の多様性に関わる大切なものだとことを幼少時から知ってほしい」と話す。

遺伝や遺伝子の教材はこれまでほとんどなかったため、「子どもに正しく教えたい」との反響があるという。

無料だが、送料が必要。氏名、電話番号、送付先を記し、30日まで機構に申し込む。連絡先はファクス022（273）6213。

「ディープな体験」「人情味」…大阪ミナミの新今宮駅前に平成34年開業のホテル建設 星野リゾート、星野佳路代表会見



産経新聞 2017年4月24日
新今宮駅前のホテル開発計画を行った星野佳路代表＝24日、大阪市（前川純一郎撮影）

大阪市浪速区のJR・南海新今宮駅前にホテル建設を計画している星野リゾート（長野県軽井沢町）の星野佳路代表が24日、大阪市内で記者会見を開き、平成34年開業を目指す計画の狙いを語った。新今宮駅周辺では、大阪のシンボル「通天閣」や「ジャンジャン横丁」などがある歓楽街「新世界」が広がり、庶民的なイメージも強い。高級旅館などを手がける星野リ

ゾートの印象とはギャップも感じさせるが、星野代表は「大阪に在ることを自覚でき、ディープな体験ができる場所」と土地の魅力を語った。

今年3月、大阪市の市有地約1万3900平方メートルの開発事業者予定者として決定して以来、星野代表は多くのメディアから「なぜ新今宮なのか」と問われたという。ホテル建設予定地のすぐ南側には、西成区の日雇い労働者の街「あいりん地区」が隣接している。

しかし、星野代表は「私にとっては疑問ではなかった」と明言。「先入観なしにみると、空港や主要観光地へのアクセスもよく、非常にポテンシャルの高い立地条件」と強調した。

さらに、実際に周辺を歩いた経験から「大阪らしいデザインの看板が立ち並び、大阪弁で話しかけてくれる人情味あふれる人がいる。大阪でしか味わえない経験ができる非常にコンテンツの豊富な場所」と述べ、観光地としての可能性の大きさを評価した。

あいりん地区を歩いて、一番驚いたのは「自動販売機でお茶が60円で売られていたこ

と」と明かし、そのコストパフォーマンスには「大阪中から買いに来てもいいくらい」と魅了されたという。

一方で、ホテル建設によって「このエリアのイメージが変わる」ことも大阪市などから期待されているという。新今宮駅のホームの目の前に建つことになるホテルは、敷地内で庭園部を大きくとり、四季折々の花木を楽しめる庭を駅構内からでも見られるようにする計画を示した。

星野代表は「たとえ駅を降りなくても、ホームに着いただけで、もしくは電車の車窓からだけでも、風景として楽しんでいただける駅前になるような開発をしたい。最終的にはこの駅前のイメージが変わり、ホテルの永続性にもつながれば」と話した。

社説：依存症 深刻に受け止めて対策を

西日本新聞 2017年04月23日

ギャンブルやアルコール、薬物などへの依存症対策を厚生労働省が本年度から強化する。各都道府県と政令市で専門医療機関を順次指定し、身近な施設で治療や助言を受けられるようにしていく。

依存症は最悪の場合、死につながる恐れがある。それでも「自己責任」などとして日本ではまだ軽く受け止められがちだ。本人とその家族や職場などが協力して対処することが重要である。

厚労省が2014年に発表した調査結果によると、依存症の疑いがある人はギャンブルが536万人、アルコールが109万人と推計され、自治体の精神保健福祉センターへの相談件数も毎年増える傾向にあるという。

このうちギャンブル依存症は昨年、カジノを中心とする統合型リゾート施設（IR）整備推進法の成立と施行で改めて注目された。

医学用語では「病的賭博」という。世界保健機関（WHO）による定義は「家族関係や職業遂行を損なうまでに患者の生活を支配する持続・反復的な賭博」とされ、日本ではパチンコ依存症が代表的だ。病的賭博の人は衝動を抑える脳機能の低下が指摘されている。

一方、アルコール依存症で入院治療を受けた人の3カ月以内の再飲酒率は約50%と高く、断酒継続の困難さをうかがわせる。

長期間にわたる多量の飲酒は肝硬変など命に関わる病気を引き起こす。自分を制御できずに家族への暴力に走る例も少なくない。妊婦の飲酒は胎児の中枢神経に異常をもたらす例もあるとされる。

薬物依存症では近年、身近な睡眠薬や抗不安剤などが問題化しており、医師の指導が欠かせない。

喫煙を含め多くの依存症は「否認の病」と呼ばれ、本人は病気と認めがらないのが特徴だ。米国などでは啓発・教育、治療、家族会による支援などの一体的な取り組みが広く普及している。

現在相談に応じている保健所のほか、精神保健福祉士らによる新たな相談制度なども幅広く活用して、依存症対策を充実させていきたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行